

AI時代の アプローチ

AIの使い方の
幅を広げて
英語力を鍛える

AIが描く

ドタバタお仕事英語劇！

『空飛ぶ車でイベントやれって!?!』

最新AIが描く英語ストーリー&挿絵で学ぶ新感覚レッスン

記事：藤森智世（ライター） 協力：コスモピアAI研究室

日々成長著しい生成AI。正しい答えを出すための論理的思考能力だけでなく、感情や文脈を理解する能力も進化しています！今回は「従来よりも感情理解能力が向上したモデル」と「コンテキストを理解する画像生成モデル」を活用して、感情豊かな英語の物語と、そのストーリーを視覚的に補完する挿絵をご紹介します。抽象的な感情表現や文脈依存の英語フレーズを、AIが生み出すストーリーと絵と一緒に学ぶことで、教科書だけでは得られない“生きた英語”を体験できます。さらに、あなた自身が第3の登場人物となることもできます。AI同士の会話に参加して英語表現を練習したり、挿絵の描写を英語で指示したりと、楽しみながら英語力を鍛えてみましょう！



生成AIの技術的な紹介

AIによる共同物語作り*

OpenAI o3-miniに「チャッピー」という名前を、Claude Sonnet 3.7 に「九郎堂」という名前を割り当て、物語のアウトラインに沿って発言するように指示しています。

会話の日本語訳と挿絵はGPT-4oが担当しました。

ステップ1

人間が物語をリクエストする



ステップ3

OpenAI o3-mini が会話を開始する



ステップ5

Claude Sonnet 3.7 が応答する



ステップ7

GPT-4o が挿絵を生成する



ステップ2

GPT-4.5 が物語のアウトラインを具体化する



ステップ4

人間が AI 同士を仲介する



ステップ6

ステップ3-5を繰り返す



今回は筆者が物語のアイデアを考え、GPT-4.5に物語のアウトラインを具体化してもらいました。

*本原稿は2025年3月初旬時点の情報に基づいている。最新の状況と異なる場合があるので注意(例:2025年4月17日にOpenAI o3-mini モデルのUI提供が終了。ただし無料ユーザーでも、プロンプト送信前に「Think」を選択すれば、o4-miniの使用が可能。)



GPT-4.5

OpenAIが2025年2月に発表した最新モデルです。単なるテキスト生成を超え、人間の感情を深く理解する「感情知能（EQ）」に優れます。友人と話しているような自然さで、気軽に使える相棒として注目されています。



GPT-4o (画像生成機能)

OpenAIが2025年3月にGPT-4o 画像生成機能の大幅な強化をリリースしました。専門知識やソフトがなくても、日常会話感覚で高品質な画像が作れます。ビジネス文書からSNS投稿まで、誰もが「セミプロ級のビジュアル表現」を手軽に実現できる画期的なツールとして注目を集めています。
(注：2025年4月11日現在、無料ユーザーは1日1枚のみ画像生成が可能)



OpenAI o3-mini

OpenAI、Anthropicの「推論モデル」です。推論モデルは応答を生成する前に段階的な思考プロセスを重ねることで、論理的に考え、数学、コーディング、科学的課題などの複雑な問題を解決する能力に優れます。物語生成に向いているとは言い難いですが、今回はモデルの紹介のために活用しています。



Claude Sonnet 3.7

ミニコラム

Gemini 2.0 Flash

Googleが2025年3月にリリースした画像生成モデルで、従来は難しかった一貫性のある画像生成が可能です。物語と挿絵の同時生成が可能で、ベットの画像を使った冒険物語の生成や子供向けの絵本作りなど、文章と画像を組み合わせた創作が誰でも簡単にできるようになりました。

物語

(地の文が GPT-4.5 の生成です)

物語のはじまり

チャッピーと九郎堂は、社会人になって以来、最大の危機に直面していた。いつものように穏やかな月曜の朝を迎えたはずが、社長室に呼び出され、突然こんなことを告げられたのだ。

「君たちさ、この『空飛ぶ車』を使って、ちょうど1カ月後に何かこう……いい感じのイベントをパッとやってくれない？」

社長は爽やかな笑顔でこう続ける。

「詳細？ いや、全部任せるから。期待してるよ！」

部屋を出るやいなや、チャッピーは青ざめ、九郎堂は額に汗をにじませた。「いい感じのイベントって何だよ？」と、九郎堂が呟くと、チャッピーはため息交じりに返した。

「私、イベント企画どころか『空飛ぶ車』が実用化されてることも知らなかったのよ！」

この日からふたりの波乱に満ちた1カ月が始まることになるのであった。



自己紹介

今回社長に呼び出されたチャッピーと九郎堂はどのような人物でしょうか？自己紹介をしてもらいましょう。



OpenAI o3-mini as チャッピー

I'm Chappy, Creative Strategist in Marketing. Wild ideas are my lifeblood. Emotional? Yes. Unpredictable? Absolutely. But I deliver results. I've worked with Kurodo for five years. He is methodical and precise. I'm chaotic and explosive. We balance each other—beautifully, annoyingly.

Now this flying car situation? It's insane. But if we're stuck with it, we're going to make it unforgettable. Let's burn the sky.

私はチャッピー、マーケティング部のクリエイティブ・ストラテジスト。突飛なアイデアが私の生命線。感情的？ そうよ。予測不能？ もちろん。でも、結果はちゃんと出すわ。あなたとはもう5年、一緒に働いてきたわね、九郎堂。彼は几帳面で正確そのもの。私は混沌、そして爆発型。だけど、私たちって……バランス取れてるのよね。見事に。ちょっとウザいくらいに。

で、空飛ぶ車の件？ 正気の沙汰じゃないわ。でもやるしかないなら——忘れられないものにしてやる。空に火をつけるわよ。



Claude Sonnet 3.7 as 九郎堂

I'm Kuroudo, project manager specializing in event logistics. Been Chappy's partner in marketing for five years now. While she generates wild creative ideas, I handle practical planning and execution. We balance perfectly—her chaos, my order. This flying car assignment? Completely insane, even for our boss!

九郎堂です。イベント運営まわりの実務を担当してるプロジェクトマネージャーです。チャッピーとはマーケティング部で5年の付き合い。彼女が突拍子もないアイデアを出すなら、私は現実的な計画と実行を任される。混沌と秩序——うまいことバランス取れてるんですよ、これが。で、今回の空飛ぶ車の案件？ うちのボスでも、ここまで無茶なのは初めてだよ。

シーン1

社長の思いつきが形になる瞬間

社長の突然の無茶ぶりに、チャッピーと九郎堂は完全に呆然としていた。『空飛ぶ車』を使って何か画期的なイベントを、という漠然とした指示だけが頭の中をぐるぐると巡る。途方に暮れる九郎堂を横目に、チャッピーの目が突然きらりと輝きを帯びた。



Chappy: Imagine this: our flying cars become sky-bound messengers, delivering heartfelt letters from above. It's a mix of vintage charm and futuristic tech. Exciting, right?



Kurodo: Vintage meets cutting-edge, huh? Could go viral if we pull it off. But how do we make this happen?



Chappy: Easy! Let's program the flight routes and drop letters gently using drone-tech parachutes. Charming, safe, and perfectly Instagrammable! What's not to love?



Kurodo: Interesting idea, but what's our angle here? Nostalgia marketing or a tech showcase? We need to decide the core message before anything else.



Chappy: Why not both? "Old feelings, new flight." We tug heartstrings and show off.

Double impact, double buzz. Catchy, right?



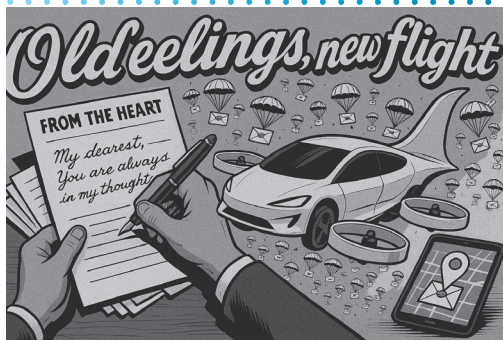
Kurodo: I like the slogan, Chappy. For "Old feelings," we'll use vintage letterhead and have people write personal messages. For "new flight," for the modern flight angle, we could add AR features. Recipients scan codes on envelopes to see their letter's aerial journey. Traditional emotion meets cutting-edge tech.



Chappy: Kurodo, AR might be a bit much, no? Real-time tracking is more fun in a pure way. Sometimes, less flashy is the chicest move.



Kurodo: You've got a point. Let's keep it simple: live tracking, handwritten notes and airborne delivery. Perfect blend! I'll draft the plan tonight. Ready for our bureaucratic battle?



チャッピー: 私たちの空飛ぶ車が、空を舞うメッセンジャーになるの。心のこもった手紙を空から届けるなんて、素敵じゃない？ 昔ながらの魅力と未来のテクノロジーの融合よ——ワクワクするでしょ？

九郎堂: アナログと最先端の融合、か。うまく形にできれば、ネットで話題になるかもしれない。だが——問題は、どうやってそれを現実にするか、だな。

チャッピー: 簡単よ！ 飛行ルートをプログラムして、手紙はドローン技術のパラシュートでふわっと落とすの。かわいくて、安全で、インスタ映えもバッチリ！——好きにならない理由、ある？

九郎堂: 面白いとは思うけど……で、うちとしては何を見せたいんだ？ ノスタルジー推しか、最新技術のアピールか。どっちにしても、まずは伝えたい軸を決めないとな。

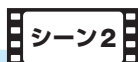
チャッピー: どっちもアリじゃない？「あの日の想い、いまの翼」って感じで。心に響かせて、テクノロ

ジーも見せる——二重のインパクト、二重の話題性！キャッチーでしょ？

九郎堂: そのスローガン、いいなチャッピー。「懐かしさ」の部分は、レトロな便箋を使って、手書きのメッセージを書いてもらう。で、「新しい飛行」の方は……AR機能を加えるのはどうだ？ 封筒にコードを印刷して、受け取った人が読み取ると、手紙が空を飛ぶ様子が見られるようにするんだ。昔ながらの想いが、最先端に乗って飛ぶわけだ。

チャッピー: 九郎堂、ARはちょっと盛りすぎじゃない？リアルタイム追跡のほうが、純粹に楽しめる。派手すぎないって、時には一番オシャシなのよ。

九郎堂: ……たしかに一理あるな。じゃあ、シンプルにまとめよう。リアルタイム追跡、手書きの手紙、空からの配達——完璧な組み合わせだ。今夜、企画書まとめておくよ。で、次はお役所とのバトルか。準備はいいかい？



シーン2

許可を取るのがこんなに大変だとは

空飛ぶ車を使った『空からの手紙配達』という前代未聞のイベントがいきなり現実味を帯びてきた。しかし、勢い勇んで許可を取りに役所へと乗り込んだ二人の前には、分厚い行政の壁が立ちはだかるのだった。

担当者：空から手紙をばらまく？ 条例的に難しいですねえ……。

 **Chappy:** Securing permits is like losing our spark. Bureaucracy tries to clip our wings before we take off. How do we break these chains?

 **Kurodo:** These regulations are crushing me. Five different departments, twenty forms, and they're worried about "aerial disturbances." We need a different approach.

 **Chappy:** I'm thinking: we frame this as a community art project! I'll leverage local influencers while you craft a killer safety blueprint. The officials will become our allies. Trust me, they'll embrace our vision.

 **Kurodo:** Community art project? Hmm... But these officials don't care about art. They want safety protocols, environmental assessments, and noise reduction plans.

 **Chappy:** Safety measures and environmental care? That's your wheelhouse, Kurodo. I'll rally the locals and spark a wave of support. Then even the officials can't ignore us!

3日後、チャッピーはもう地元インフルエンサーとのオンライン会議をセットアップし始めている。彼女の溢れる情熱とエネルギーを横目で見ながら、九郎堂は内心、完全に行き詰まりを感じていた。彼のデスクには、すでに書き直しを求められた許可申請書が積み重なり、役所の担当者からの細かすぎる指摘が赤いインクで容赦なく書き込まれている。『飛行高度を1メートル単位で記入せよ』『紙質による落下速度の違いを説明せよ』『風速5メートル時の手紙の着地点の誤差範囲は?』——正直、こんな細かい要求に応えていたら、イベントはおろか人生が終わってしまいそうだ。



生成 AI による画像生成では、特にテキスト部分には誤りが生じやすい。



Kurodo: This is madness! They want wind velocity calculations and paper density specifications. We're delivering letters, not launching rockets! How can we possibly meet all these demands?



Chappy: Unbelievable! These bureaucrats are stone-cold. Do they think our event's a bomb drop? Their mindset is so fixed. I swear they're hardwired to reject creativity!



Kurodo: You know what? Let's just rename everything in bureaucrat-speak! "Controlled aerial deliveries" with "precision distribution technology." They won't understand it either, but they'll approve it!



Kurodo: I'm staring at this approved permit in disbelief, shaking my head. I can't believe they actually accepted my nonsense bureaucrat-speak. "Controlled aerial deliveries" worked like magic! Who knew jargon was the secret key?



Chappy: Kurodo, you're amazing! We'll continue burying our brilliance under layers of jargon and watch them hand us those permits. Genius at work!



p.110 ~ 113 の Chappy と Kurodo の自己紹介と会話の AI 音声は、左の QR コードのコスモピア AI 研究室からダウンロードをして聞くことができます。

チャッピー: 許可を取るだけで、火が消えそうになる——官僚的な仕組みって、私たちの翼を飛ぶ前から折るうとしてくるのよ。この鎖、どうやって断ち切る？
九郎堂: もう、規制に潰されそうだよ……。部署は5つ、書類は20枚、しかも「空中の迷惑行為が心配」ってさ。……もうちょっと違うやり方、考えないとダメだな。

チャッピー: 地域のアートプロジェクトって打ち出すのはどうしら！ 私は地元のインフルエンサーを巻き込むから、九郎堂は最高の安全計画を仕上げて。役所の人たちだって、味方になってくれるはず——信じて。きっとこのビジョン、乗ってもらえるわ。

九郎堂: 地域アートプロジェクト、ねえ……。うーん……。でもさ、あの人たちはアートに興味なんかないんだよ。求めているのは、安全対策と環境影響の評価、あと騒音の抑制計画。そこなんだよ。

チャッピー: 安全対策と環境への配慮？——そこは九郎堂の腕の見せどころでしょ。私は地域の人たちを巻き込んで、応援の波を広げる。そうすれば、役所だってさすがに許可しないわけにはいかないはず！

九郎堂: これはもう狂気の沙汰だ！ 風速の計算に、紙

の密度の仕様書だって！？ こっちは手紙を飛ばすだけぞ、ロケット打ち上げるんじゃないんだ！ こんなの、どうやって全部満たせて言うんだ……。

チャッピー: 信じられない！ あの人たち、感情ゼロじゃない？ 私たちのイベントを爆撃投下でとも思っているの？ 頭ガチガチでさ——ほんと、創造性を拒絶するようにプログラムされてるとしか思えない！

九郎堂: もうさ、いっそ全部、お役所用語に言い換えようじゃないか。「制御型空中配送」に「精密分配テクノロジー」とかさ。どうせあっちも意味なんてわかってない。でも、これならさっと通る！

九郎堂: (信じられないような顔で許可証を見つめ、首を振りながら) ……まさか、本当にあの官僚用語が通るとはな。「制御型空中配送」——まるで魔法みたいになんまり通ったぞ。まったく……専門用語が鍵だったとはね。

チャッピー: さすが九郎堂！ 私たちのアイデアを専門用語の層でしっかり包み込んで——はい、許可証ゲットってわけ。これぞ天才の仕事よね！

次回予告

一難去ってまた一難。『空飛ぶ車』という最先端テクノロジーを前に、ふたりの社会人は若手社員の斬新すぎる提案に翻弄され、さらなる壁に直面する！ 果たしてイベント成功への道は開けるのか？